

会記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 植物地理・分類学会, The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy, メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00053555

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



会 記

2012 年度会計報告 (2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

○植物地理・分類学会

収入 (A)	1,326,952円	支出 (B)	1,461,465円
会費	1,077,330	雑誌印刷費 (59-2)	953,980
バックナンバー売上	16,000	雑誌送料 (59-2)	54,710
別刷・超過ページ組賃・カラー図版	212,000	通信費	46,600
利息	202	英文校閲費 (2011, 2012)	100,000
雑収入	2,520	庶務事務費	105,975 (内訳)
総会参加費等	18,900	発送作業アルバイト	23,000
		文具等	14,460
		封筒印刷費	39,900
		雑誌封入発送代行	17,410
		雑支出	11,205
		ニュースレター送料	78,080
		会議旅費	94,000
		自然史学会連合負担金	20,000
		総会関係	8,120 (内訳)
		運営費	8,120
		会場アルバイト	0

差引 (A - B) △ 134,513 円

次年度への繰越金 (前年度繰越金 2,631,360 + △ 134,513) 2,496,847 円

○植物地理・分類学会後援会

収入 (A)	413,716円	支出 (B)	120,415円
醸金 (件)	94,879	選考会議費	52,000
前年度繰越金	318,837	授賞金	50,000
		受賞者旅費	17,000
		大会用消耗品	315
		払込票印字サービス料金	1,100

差引 (A - B) 293,301 円 (次年度への繰越金)

新入会員 (2013 年 1 月～2013 年 10 月)

6 月 1 日 首藤光太郎 〒 960-1296 福島県福島市金谷川 1 福島大学理工学群共生システム理工学研究所

退会会員 (2013 年 1 月～2013 年 10 月)

中澤 保 〒 783-0005 南州市大そね乙 2314-27
 花森功仁子 〒 424-8610 静岡市清水区折戸 3-20-1 東海大学社会連携イノベーションセンター内 株式会社ジェネテック
 奥田 桂介 〒 501-1175 岐阜市下西郷 4 丁目 113 番地 1
 河野 昭一 〒 611-0041 宇治市槇島町本屋敷 51-1 グリーンタウン槇島 303-204
 島野 好次 〒 374-0107 群馬県邑楽郡板倉町大字西岡甲 1362 (死去)

三浦 威 〒 737-2315 広島県佐伯郡沖美町高祖 113-1 (死去)
 稲田 敏昭 〒 557-0042 大阪市西成区岸里東 2-9-12 シャトー山清 505
 牧野 彰吾 〒 350-1124 川越市新宿町 1-3-16
 川端 義一 〒 950-0823 新潟市東中島 4-12-21 (死去)

住所・氏名変更及び訂正 (2013 年 1 月～2013 年 10 月)

田中 教之 〒 192-0395 八王子市大塚 359 帝京大学 文学部教育学科生物 → 〒 192-0352 八王子市大塚 98-11
 瀬尾 陸奥 〒 939-1378 砺波市春日町 2-17 → 〒 939-1379 砺波市出町中央 6-9 総合カレッジ SEO
 中西 弘樹 〒 852-8521 長崎県長崎市文教町 1-14 長崎大学教育学部生物学教室 → 〒 851-2130 長崎県西彼杵郡長与町 2 丁目 29-4 亜熱帯植物研究所
 西沢 徹 〒 305-8506 茨城県つくば市小野川 16-2 独立行政法人国立環境研究所生物圏環境研究領域生態遺伝研究室 → 〒 910-8507 福井県福井市文京 3 丁目 9 番 1 号 福井大学教育地域科学部
 田丸 豊生 〒 731-0213 広島県広島市安佐北区三入南 2-9-6 → 〒 731-0501 広島県安芸高田市吉田町吉田 1126-2
 笹川 通博 〒 940-0041 長岡市学校町 3-14-1 新潟県立長岡高等学校 → 〒 950-0994 新潟市中央区上所 1-3-1 新潟県立新潟南高校
 下田 路子 富士常葉大学環境防災学部 → 常葉大学社会環境学部
 林 佳貴 〒 125-0042 東京都葛飾区金町 1-6-1 金町マンション 429 号 → 〒 124-0012 東京都葛飾区立石 2-28-5 レックス立石レジデンス 801 号
 小林 知春 〒 380-0921 長野市栗田 400-2 ニワコート栗田 108 → 〒 384-0051 小諸市八満大字八満 1027-4
 富田 啓介 〒 475-0903 半田市出口町 2-195-7 → 〒 464-0021 名古屋市千種区鹿子殿 16 4-52

植物地理・分類学会 2014 年度大会のお知らせ

植物地理・分類学会 2014 年度大会は 5 月 31 日, 6 月 1 日に富山県中央植物園の中田政司氏, 志内利明氏にお世話になり富山市において開催します。現在, 次のように計画中ですが, 決定いたしましたら, 大会の詳細および参加申し込み等のご案内を学会ニュースでお知らせいたします。

1. 会場 (予定)

富山県中央植物園 (富山県富山市婦中町上轡田 42)

2. 日程

5 月 31 日 (土) 午後: 総会, 学会賞授賞式, 受賞記念講演会, 一般講演, 懇親会

6 月 1 日 (日) エクスカーション

富山県中央植物園内および富山県内の適地を検討中です。

植物地理・分類学会 2013 年度大会

植物地理・分類学会 2013 年度大会は 6 月 1 日（土）～2 日（日）に福島県安達郡大玉村の「ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら」において、福島大学の黒沢高秀氏にお世話いただき開催された。施設は、日本百名山の一つ安達太良山（1700m）の南東麓、標高 600m ほどの高原にあって、レクチャールームを備えたビジターセンターを中心に、周囲の森林に自然探索路が整備されており、本学会の大会会場に好適な環境であった。

まず、午後 1 時から総会を行った。綿野泰行会長から就任の挨拶があった後、議長に松本淳氏を選出し、議事に入った。まず、2012 年度活動報告として、庶務幹事から以下の事項について報告があった。

- ・会員状況（2012 年度末）：個人 550 名（うち学生 29 名，特別 12 名），20 団体
 - * 2011 年度末：個人 556 名（うち学生 25 名，特別 12 名），21 団体
- ・大会開催：2012 年 6 月 2 日，越前町生涯学習センター，越前町立福井総合植物園（福井県越前町）
- ・学会 60 周年記念公開講演会：2012 年 6 月 1 日，越前町生涯学習センター（福井県越前町）
- ・エクスカージョン実施：2012 年 6 月 3 日，越知山（福井県越前町）
- ・学会賞表彰：2012 年度学会賞授与（学会賞：岩坪美兼氏）
 - 2013 年度学会賞選考（応募締切 2012 年 10 月 31 日）
- ・会誌発行：植物地理・分類研究 vol.59.no.2
- ・総会開催：2012 年 6 月 2 日，越前町生涯学習センター（福井県越前町）
- ・評議員会開催：同上
- ・幹事会開催：2012 年 4 月 7 日（石川県女性センター），6 月 2 日（福井総合植物園）
 - * 学会運営に関わる協議はメールにより随時実施
- ・その他：会員名簿作成のための調査準備

続いて、会計幹事から 2012 年度会計報告（本誌別ページ掲載）が、監査員の本多郁夫氏と高木政喜氏より監査済みの配布資料に基づいて行われた。参加者の拍手により活動報告と会計報告は承認された。次に、2013 年度の活動計画が庶務幹事から、予算案が会計幹事から提案され、拍手により賛成多数で承認された。

次に、会長より、2014 年度の大会開催地について、富山県中央植物園の中田政司氏、志内利明氏にお世話いただき、富山市において開催したいとの提案があり、拍手で承認された。そして、志内氏より歓迎の挨拶をいただいた。

さらに、会長より、2014 年度からの役員について以下のように提案があり、拍手により承認された。

会長：綿野泰行；庶務幹事：五百川裕；会計幹事：中野真理子；幹事：寺田和雄，志内利明，西沢徹；編集委員長：山田敏弘；監査員：本多郁夫，高木政喜；評議員：大塚孝一，高橋弘，古池博，御影雅幸，加藤雅啓

続いて、会長より、学会会則の改正について提案があった。学会賞選考委員会の会則上の根拠、および会則施行上のこれまでの慣例を細則として定めることの会則上の根拠を明らかにするためのものであり、以下の 2 つの条項を会則に追加する改正である。会則に従って、出席者の 2/3 以上の賛成があることを確認し承認された。

第 15 条 本会の会長は、必要に応じて、特定の事項を審議する委員会を設けることができる。

第 16 条 この会則についての細則は、総会の議決を経て、別に定める。

付則 .6. この規約は 2013 年 6 月 1 日から施行する。

そして、この会則改正を受けて、会長より、学会細則の制定について提案があった。以下の「会費についての細則」および「学会賞についての細則」を制定するものであり、質疑の後、会則に準じて、出席者の 2/3 以上の賛成があることを確認し承認された。

会費についての細則

第 1 条 本会の会費は、次のとおりとする。

- (1) 普通会員は年 4,000 円，ただし，学生の場合は年 1,000 円とする。
- (2) 団体会員は年 6,000 円とする。

第 2 条 会員に災害などのやむを得ない事態が生じた場合には、幹事会の承認を得て、会長は会費の納入を減免することができる。

附則 本細則は 2013 年 6 月 1 日より実施する。

学会賞についての細則

第 1 条 学会賞は会則第 3 条 3 項に基づき、植物地理学、植物生態学および植物自然史関連分野に関係した調査、研究の業績、または教育的な貢献が著しい会員を表彰するために授与する。

第 2 条 学会賞は「植物地理・分類学会賞」および「植物地理・分類学会奨励賞」からなるものとする。

第 3 条 学会賞は、自薦、他薦を問わず推薦された会員の中から、学会賞選考委員会により選ばれた者に授与する。

第 4 条 学会賞選考委員会は、会則第 15 条に基づき、会長が委嘱する委員長および若干名の委員により構成し、「植物地理・分類学会賞」および「植物地理・分類学会奨励賞」の授賞者を選考し、結果を会長に答申する。委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

第 5 条 「植物地理・分類学会賞」は本細則第 1 条に基づき、5 年以上継続して本会会員である者のうち、地域植物相の解明、モノグラフの研究、分類群の系統解明などの研究的な貢献、または地域の植物研究グループの中心としての教育的な貢献が特に顕著であると認められるものに授与する。

2. 「植物地理・分類学会奨励賞」は本細則第 1 条に基づき、応募時において満 39 歳以下の本会会員であり、ファーストオーサーとして本会誌「植物地理・分類研究」に論文を発表している者のうち、優れた萌芽的研究を行い、今後の発展が期待できるものに授与する。

第 6 条 授賞候補者の募集は本会誌に公告して行う。

第 7 条 学会賞に応募するものは所定の申請書類を提出しなければならない。

第 8 条 学会賞の受賞者の表彰は大会において行う。

第 9 条 受賞者には賞状および副賞を授与する。

第 10 条 学会賞の受賞者は大会において記念講演発表を行うことができる。

第 11 条 その他授賞者の選考に必要な事項は別に定める選考内規による。

附則 本細則は 2013 年 6 月 1 日より実施する。

以上をもって、総会を閉会した。

午後 2 時から、2013 年度の学会賞授賞式が行われ、加藤雅啓選考委員長より、学会賞は湯澤陽一氏、奨励賞は三浦憲人氏に決定したことが、両氏の業績を紹介し報告された（本誌**ページ参照）。続いて、会長より賞状と副賞の贈呈があり、その後、両氏の受賞記念講演を拝聴した。まず、湯澤氏が「東日本大震災による津波が福島県の海岸植物に与えた影響」と題し、海岸砂浜の植物群落の被害、海食崖の植物の被害、絶滅危惧種の被害について、豊富な写真と調査資料に基づいて話をされ、今後の海浜植物保全の課題も指摘された。次に、三浦氏が「日本産シソ科の細胞分類学的研究」と題し、シソ科植物の染色体数・核型および基本数の解



学会賞を授賞される湯澤氏（左）と奨励賞を授賞される三浦氏（右）

明、種内倍数性と形態学的・地理的分布の比較について、オドリコソウ属、ダンギク属、カキドオシ、ラショウモンカズラなどを例にあげ、これまでの研究の紹介をされた。講演後には、活発な質疑応答もあり、両氏の今後益々の研究発展を期待する会となった。

続いて、午後4時から一般講演が行われた。演者と演題は以下の通りである。

1. 上野雄規（宮城県白石市）：宮城県から絶滅した維管束植物の標本
2. 黒川康嘉（香川県高松市）：葉緑体DNAによる瀬戸内絶滅危惧種ウンラン (*Linaria japonica* Miq.) の由来
3. 中田政司（富山県中央植物園）：外来キクタニギクによる固有種リュウノウギクの遺伝的汚染が始まっている？!
4. 谷友和（上越教育大学）：ウバユリ・オオウバユリの個体サイズ変異と発芽特性
5. 山路風太・綿野泰行（千葉大学大学院理学研究科）：キツネノカミソリは開花前に小バチによって送粉される
6. 寺田和雄（福井県立恐竜博物館）：日本産の三畳紀後期～白亜紀前期の針葉樹材—その地質層準の再検討と命名規約上の問題点—

一般講演終了後、宿泊者は施設内のコテージに荷物を運び込むために移動し、その間に会場のレクチャールームの様様替えを行って、午後7時近くになってから懇親会が開催された。大会開催にご協力いただいた、東北植物研究会、福島県植物研究会、福島大学の皆さんにも多数参加いただき、植物談義に花が咲き、美味しいオードブル、そして、福島県産の様々な飲み物が、さらに会話の弾む力となり、予定の閉会時間を忘れる盛会であった。来年の富山での再会を期して閉会した。

今年度の大会は平成25年度福島大学学術振興基金助成事業の支援を受けて開催いたしました。ここに記して感謝いたします。

(庶務幹事 五百川裕)

エクスカージョン：福島県安達郡大玉村の「ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら」

2013年6月2日、日曜日、福島県のフォレストパークあだたらでエクスカージョンが行われた。天気は雨の心配もあったが、幸いにも時々雨が降る程度で、曇りだった。午後にビジターセンター前に集合し、敷地内の森の散策に向かった。

敷地内を移動する間、ケヤマハンノキやヒメヤシャブシ、ウリノキ、アカマツなどを見かけた。火山が噴火し溶岩や灰が積もった後、アカマツが育ち二次林のようになったそうだ。敷地内の植物は元々生えていたものと、このあたりで見られるものを植栽したものがあるそうだ。クマイチゴもおそらく植えられたものではないか、と話されている人もいた。木本だが寿命が多年生草本よりも短く、一年ほどで枯れてしまうそうだ。

森の入口の「イオンの森」の看板の奥には、サワフタギが白く細かい花をつけていた。近くには、コゴメウツギもあった。藪を抜け、少し開けたところに出ると、足元に「ツクバネ（衝く羽根）」の名の付く植物が多



エクスカージョン参加者の集合写真

く見られた。「ツクバネ」とは羽根突きに使われる羽根（ムクロジの実に数枚の鳥の羽根を差し込んだもの）を指している。ツクバネウツギは花冠が落ちた後のがくが 5 枚ずつ広がる。ツクバネソウは葉も外花被片も 4 枚刻みだ。そしてツクバネは果実が羽根そのものの形をしている。雄花の小さな 4 枚の花弁がかわいらしい。道の脇に、ほかの植物の影に隠れるようにギンリョウソウが咲いていた。近くに沢があったので、湿り気を好むこの腐生植物が育つのにちょうど良い環境だったのだろう。幽霊のようで、妖しくも美しかった。また、カタクリが群生している所もあった。ちょうど果実がなっていたので、種子を取ってもらい、アリが好む「エライオソーム」を試食した。ほのかに甘かった。種自体もかじってみたが、特に味はなかった。植物遊びに関連して、オオカメノキの葉で紙鉄砲のように大きな音を鳴らして遊ぶことができると教えてもらった。とても大きな葉だった。

林内の葉の積もった所にウスバサイシンという植物もあった。これもまた、ギンリョウソウと同様に湿ったところに生える植物で、カンアオイ属には珍しく落葉性だ。

道中には小川が流れ、タゴガエルの声が聞こえた。ヤグルマソウ、イタドリ、ズダヤクシュ等が川の傍に生えていた。ヤグルマソウは葉がとても大きく目立っていた。イタドリはやや明るい場所にあった。ズダヤクシュは亜高山帯のブナ林～針葉樹林の林内に生える多年草で、船型の蒴果にはまだ白色の花弁が残っていた。足元にはオククルマムグラが生えていた。ヤグルマソウもそうだが、クルマとつく植物は葉が輪生のものがほとんどだ。乾果はかぎ状の毛があり、動物や人に付着して運ばれる「ひつつきむし」だ。クルマムグラとは茎や葉の裏面中脈にある下向きの刺状毛で見分けられる。川の中に生えている植物は、ワサビかと思ったがリュウキンカだった。袋果が裂けて種子が覗いていた。

林内に生育していたマムシグサは偽茎にマムシに似た模様があり、球根や葉にはシュウ酸カルシウムの針状結晶が含まれるため食べられない。栄養状態によって雌雄が決まる。雄花序の仏炎苞下部には隙間があり花粉を目当てに入った昆虫が出られるが、雌花序には隙間がないため、花粉を体に付けた昆虫が中で動き回り、より受粉しやすくなる。

その他、林内で目立つ植物として、ササバギンランやヤマジノホトトギスがあった。ササバギンランはギンランに比べて茎頂部の葉が花序より長く、花も上を向いているところで区別できる。ヤマジノホトトギスはまだ花が見られなかったが、葉に花を想起させるような斑模様があった。

植物だけではなく、様々な昆虫も見ることができた。中でもアワフキムシの幼虫と羽化直後のハルゼミが強く印象に残っている。アワフキムシの幼虫は吸い取った樹液の水分と、分泌物を排出し、空気を吹き込んで、体の周りに泡を作り出して身を守る。樹の枝で剥いでもらったが、少し粘り気があるようだった。ハルゼミは羽化したてで、やわらかそうな透き通る緑色をしていた。

福島にあだたらの森を歩いてみて、冷温帯の里山という印象を受けた。私のなじみのある千葉の山林に比べて、開放感があり明るかった。また、カタクリの種子やオオカメノキの葉の鉄砲など、遊びに使える植物もたくさん生えていて、見るだけでなく触って楽しめるところが良かった。足元の植物相が豊富なのは、雪によるものなのか、下刈りによるものなのか気になった。林床の植物が面白く、じっくり観察していたら前の班と離れてしまい、予定していたルートの半分ほどしか歩くことができなかったが、十分に楽しめた。

(芳尾歩美)



見学風景



ツクバネソウ



カタクリの種



ギンリョウソウ



ズダヤクシュ



リュウキンカ



アワフキムシ



ヤマジノホトギス



マムシグサ



ハルゼミ

2013 年度植物地理・分類学会賞受賞者の選考について

2013 年度植物地理・分類学会の受賞者は、学会賞選考委員会による厳正な選考の結果、下記のように決定いたしました。

植物地理・分類学会賞

受賞者 湯澤陽一

植物地理・分類学会奨励賞

受賞者 三浦憲人

湯澤陽一氏は、長年にわたって福島県の地域植物相の研究、植物分類学的研究、および福島県の地域植物研究のとりまとめと地域研究者の育成に取り組み、顕著な業績を上げた。福島県の地域植物相の研究では、福島県植物誌編纂委員会の事務局長として、「福島県植物誌」の編纂に中心的に関わり、地域研究誌「フロラ植物」の編集を行った。植物分類学的研究では、コケ植物とくに世界のヤスデゴケ属亜属のモノグラフをコケ植物分類学の世界的な学術誌に公表したほか、5 新種などを発表した。地域植物研究のとりまとめと地域研究者の育成では、福島県植物研究会の会長を務めるとともに、地域研究者を育てた。

以上のように、湯澤陽一氏の業績は、植物地理学および植物分類学の分野において学術の見地からまことに顕著であると共に、本学会の発展に大きく貢献されており、植物地理・分類学会賞を授賞するのにふさわしいと評価した。

三浦憲人氏は、染色体が小型で、これまで核型研究がすすんでいなかったシソ科の細胞分類学的研究を行って、顕著な業績を上げるとともに、成果を学会誌「植物地理・分類研究」に精力的に発表した。細胞分類学的研究では、シソ科 29 種の染色体数と 10 属の染色体基本数を明らかにした。染色体数および核型の変異の研究から、属内の系統分類や種の生殖様式について重要な知見をもたらした。

以上のように、三浦氏の業績は植物地理学および植物分類学の分野において学術の見地から顕著であり、今後の研究の発展が期待できることから、植物地理・分類学会奨励賞を授賞するにふさわしいと評価した。

両氏には、今後とも一層研究に邁進されることを期待すると同時に、本学会においても活躍されることを願ってやまない。

2013 年 2 月 26 日
植物地理・分類学会賞選考委員会

2015 年度植物地理・分類学会賞応募要領

植物地理・分類学会は、植物地理学と植物分類学の振興と育成のため、植物地理・分類学会賞および植物地理・分類学会奨励賞の2つの学会賞を設け、以下のように公募する。

植物地理・分類学会賞

応募資格

受賞の年度までに5年以上、植物地理・分類学会員であること。

受賞の対象となる業績内容の例：

- ・地域植物相の解明に貢献
- ・モノグラフの研究に貢献
- ・分類群の系統解明に貢献
- ・地域の植物研究グループの中心としての教育的な貢献

応募方法

自薦または他薦による候補者の推薦

提出書類

- (1) 履歴書（研究歴を明瞭に記載したもの）1部、あるいはこれまでの研究歴についてかかれた書類1部（学校、研究所、博物館等に所属していない人に限る）
- (2) 業績リスト1部
- (3) 主要論文の別刷りをそれぞれ3部、著書があれば1部
- (4) 推薦理由書
- (5) 業績内容を紹介できる人（1名）の連絡先を記した書類

応募期限

2014年10月31日

応募先（必ず書留便で郵送してください）

〒953-8512 上越市山屋敷町1番地 上越教育大学学校教育学系内
植物地理・分類学会 庶務幹事 五百川 裕

植物地理・分類学会奨励賞

応募資格

- ・優れた萌芽的研究を行い、今後の発展が期待できる植物地理・分類学会員
- ・ファーストオーサーとして植物地理・分類研究に論文を発表している者
- ・応募時に満39歳以下の者

応募方法

自薦または他薦による候補者の推薦

提出書類

- (1) 履歴書（研究歴を明瞭に記載したもの）1部
- (2) 業績リスト1部
- (3) 主要論文の別刷りをそれぞれ3部、著書があれば1部
- (4) 推薦理由書
- (5) 業績内容を紹介できる人（1名）の連絡先を記した書類

応募期限

2014年10月31日

応募先（必ず書留便で郵送してください）

〒953-8512 上越市山屋敷町1番地 上越教育大学学校教育学系内
植物地理・分類学会 庶務幹事 五百川 裕

植物地理・分類学会 会則

- 第 1 条 本会は、植物地理・分類学会と称する。
- 第 2 条 本会は、植物系統分類学、植物地理学、植物生態学および植物自然史関連分野の進歩普及を図り、あわせて会員相互の連絡および親睦を図ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 研究会、講演会、シンポジウム、観察会等を開催する。
 2. 会誌その他の出版物を刊行する。会誌「植物地理・分類研究」は原則として年 2 回発行する。
 3. 植物系統分類学、植物地理学、植物生態学および植物自然史関連分野に関係した調査、研究の業績、または教育的な貢献が著しい会員を表彰する。
- 第 4 条 本会の事業年度は 4 月 1 日に始まり 3 月 31 日に終わる。
- 第 5 条 会員は普通会員、学生会員、団体会員、賛助会員および特別会員とする。
1. 普通会員、学生会員、団体会員および賛助会員は、本会の趣旨に賛同し、それぞれ所定の会費を納める個人または団体。
 2. 特別会員は、本会の発展に著しい功績のあった個人で、幹事会の議を経て会長が推薦し総会の承認を受けた者。特別会員は会費の納入を要しない。
- 第 6 条 普通会員、学生会員、団体会員および賛助会員は、会費を前納（前年度の 3 月末日まで）しなければならない。なお、納入された会費は返付しない。
- 第 7 条 会員は、会誌の配布を受け、あわせて会誌に投稿すること、ニュースレターの配布を受けること、本会主催の諸会合に出席することができる。
- 第 8 条 新しく会員になろうとするものは、当年度の会費を添えて本会事務局に申し込むこと。退会する場合は本会事務局に届け出なければならない。会費に滞納があるときは、未納分を納めなければならない。
- 第 9 条 会員が次の各項に該当するときは、幹事会の議決を経て次の措置をとることができる。
1. 本会の名誉を著しく傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったときは、除名する。
 2. 会費を 2 年間滞納したときは、除籍する。
- 第 10 条 本会の最高決定機関として総会を置く。総会は毎年 1 回開催する。総会での議決は出席者の過半数の賛成を以て行う。ただし会則の改正には出席者の 2/3 以上の賛成を要する。
- 第 11 条 本会に幹事会を置く。幹事会は本会の運営を行う。幹事は会長、庶務幹事、会計幹事、編集委員長各 1 名、およびその他若干名とし、総会において選出する。これらの役員の任期は 2 年とする。
- 第 12 条 本会に編集委員会を置く。編集委員会は編集委員長、主任編集委員および編集委員で構成し、編集委員長がこれを代表する。主任編集委員 1 名、編集委員は若干名とし、編集委員長が幹事会にはかつて委嘱する。委員の任期は 2 年とする。
- 第 13 条 本会に評議員会を置く。評議員会は会長の諮問に応じ、会務の重要事項を審議する。評議員会は総会において選出された評議員若干名で構成し、任期は 2 年とする。
- 第 14 条 本会に監査員を 2 名置く。任期は 2 年とし、総会において選出する。
- 第 15 条 本会の会長は、必要に応じて、特定の事項を審議する委員会を設けることができる。
- 第 16 条 この会則についての細則は、総会の議決を経て、別に定める。
- 付則. 1. この規約は 1990 年 6 月 2 日から施行する。
- 付則. 2. 第 12 条の規定に関わらず会長は編集委員長を兼ねることができる。
- 付則. 3. この規約は 2001 年 6 月 2 日から施行する。
- 付則. 4. この規約は 2002 年 6 月 1 日から施行する。
- 付則. 5. この規約は 2005 年 6 月 4 日から施行する。ただし 2005 年度は、第 4 条の規定に関わらず事業年度は 2005 年 1 月 1 日から 2006 年 3 月 31 日とする。
- 付則. 6. この規約は 2013 年 6 月 1 日から施行する。

植物地理・分類学会からのご案内

1. 入会方法

- 1) 本学会に入会を希望される方は、①氏名（フリガナ、英語表記）、②生年月日、③連絡先（郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス）、④入会希望年度、⑤キーワード5語以内（研究課題、興味ある分類群・地域など）を記載し、郵便、FAX、または電子メールで下記まで送付ください。なお、学生の方は、所属の欄にその旨を記載いただき、学生であることを証明するもの（学生証の写し、または指導教員記載の証明書）を入会申込書に添えてください。学会ホームページ（<http://raicho.sci.u-toyama.ac.jp/~phytogeotaxo/>）の入会案内から申込書をダウンロードして記入いただいても構いません。

申込先：会計幹事 中野真理子

〒920-1147 金沢市銚子町1-441番地 石川県立自然史資料館

TEL 076-229-3450(代表) / FAX 076-229-3460 / E-mail: nakano@n-muse-ishikawa.or.jp

- 2) 同時かまたは数日以内に、個人会員の場合は、年会費4000円（学生会員1000円）、団体会員は6000円を、郵便振替口座00760-0-904番、植物地理・分類学会宛に振り込んでください。

2. 雑誌の購読、バックナンバー、当会発行書籍に関するお問い合わせ

会計幹事 中野真理子

〒920-1147 石川県金沢市銚子町1-441番地 石川県立自然史資料館

TEL 076-229-3450(代表) / FAX 076-229-3460 / E-mail: nakano@n-muse-ishikawa.or.jp

3. 住所変更など会員の異動に関するご連絡

会計幹事 中野真理子

〒920-1147 石川県金沢市銚子町1-441番地 石川県立自然史資料館

TEL 076-229-3450(代表) / FAX 076-229-3460 / E-mail: nakano@n-muse-ishikawa.or.jp

4. 引用許可申請に関するお問合せ

本号末尾に掲載の様式で「引用許可申請書」を作成し、許可を得てください。なお、同様式は本会誌各巻2号にも掲載されています。

申請書送付先：庶務幹事 五百川 裕

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学学校教育学系

TEL & FAX 025-521-3430 / E-mail: iokawa@juen.ac.jp

5. 投稿に関するお問い合わせ

編集委員長 山田敏弘

〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学理工研究域自然システム学系

TEL & FAX 076-264-6207 / E-mail: nymphaea@staff.kanazawa-u.ac.jp

6. その他のお問合せ

庶務幹事 五百川 裕

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学学校教育学系

TEL & FAX 025-521-3430 / E-mail: iokawa@juen.ac.jp

投稿規定

(2011 年 3 月部分改定)

編集方針

「植物地理・分類研究」は、植物地理・分類学会機関誌として年 1 巻 (2 号) 刊行される。本会誌は、総説、論文、短報、ノート (新産地情報、観察記録等の雑録) のほか、新刊紹介、追悼文、その他編集委員会が掲載を認めたものを掲載する。本文は日本語または英語を使用。

投稿資格

「植物地理・分類研究」に投稿する者は、原則として本会会員 (共著の場合は 1 名以上の本会会員を含む) に限る。

原稿の受付

原稿は、投稿規定に従って書かれたもの限り受け付ける。

原稿の審査及び採否

投稿された原稿は、原則として 2 名の審査員が審査し、その意見のもとに、編集委員会が採否を決定する。

論文等の受理

原稿が編集委員会に届いた日をもって受付日 (received)、編集委員会が掲載を可とし、編集委員長がそれを認めた日をもって受理日 (accepted) とする。なお、掲載順は編集委員会によって決定する。

著作権

本誌掲載の論文、短報、ノート、その他の著作権は、植物地理・分類学会に帰属する。著者は、著作権を委譲する旨の書類を、最終原稿送付時に本学会に提出する。

論文等の長さ

本論文は、刷り上がりで、図表を含み 8 頁までとする。短報とノート (雑録) は 4 頁までとする。ただし超過頁の組版代 (1 頁につき 6,000 円) を著者で負担する場合には制限しない。

原稿の送付

a 紙原稿の場合: 本稿 1 部のほか、コピー 2 部、合計 3 部を提出する。その際、表・図は 3 部ともに鮮明なコピーを送ること (写真については、原図を写真に撮ったものか、または審査に使用し得る程度の鮮明な写真コピーとする) 表・図の原図は、掲載決定後の最終原稿とともに送付する。

b 電子投稿の場合: 本文、表、図とも原則として PDF ファイルとし、電子メールに添付して下記編集委員会あて送付する。本文と図の説明には、頁番号および連続行番号をつけること。添付ファイルのサイズは 5MB 以下とし、超過する場合は分割して送付する。

原稿の書き方

本論文は、①著者名と表題 (和英両方)、②所属、住所、および連絡先メールアドレス (任意)、③ Abstract (英文で 250 語以内)、④英語のキーワード (表題にない 5 個以内の語句でアルファベット順)、⑤本文、⑥引用文献の順序で構成するものとする。短報は、①著者名と表題 (和英両方)、②所属、住所、および連絡先メールアドレス (任意)、③本文、④引用文献の順序で構成するものとする。本論文・短報は、英文の場合、さらに和文の摘要を付けること。短報が和文の場合、英文の Summary を付けることも可。ノート (雑録) は、英和両文で著者名と題名を付け、所属、住所、および連絡先メールアドレス (任意) を末尾に付ける。ノートが英文の場合、和文の摘要を付けることも可。本論文・短報・ノートとも、場合により Appendix を付けることも可。著者が複数である場合、責任著者 (corresponding author) の氏名と連絡先をアスタリスク (*) で明示する。本文中で使用する単位は、国際単位系 (SI) に限る。

原稿の用紙

英文原稿は、A4 判用紙に上下 3cm 程度、左右 2.5cm 程度あけ、ダブルスペースで 25 行を原稿の 1 頁とする。和文原稿の場合は、原則として日本語ワードプロセッサを使用し、A4 判の用紙に周囲それぞれ 3cm 程度の余白を取ったうえで、30 字× 30 行程度を原稿の 1 頁として作成する。手書きの場合には、A4 判 400 字詰め原稿用紙を用いること。

図と写真

図および写真は、そのまま印刷できるようにレイアウトして、堅い A4 判の台紙にはりつけること。裏面には著者名と図番号、天地、縮小率を明記すること。写真は原寸大、図は 67% 縮小程度が望ましい。A4 判に納

めることが不可能な植生表のような場合には、A4に分割したコピーを添えること。図にはスケールを表示し、図の記号、数字には文字を貼り込むこと。図は原則として刷り上がりで15cm(頁幅)×19cm以内または7cm(半頁幅)×19cm以内(いずれも幅×高さ)であること。

和文原稿の図表および写真の説明は、英文、和文、英文和文併記のいずれでもよい。図の説明文は、図中には入れ込まず、独立した原稿として用意すること。なお、図表は希望の挿入位置を原稿中に指示すること(著者による図表などの縮小率や位置の指定は、編集委員会において若干変更する場合があります)。当面、カラー写真は、1点(組写真でも可)に限り組版料無料。2点目からは実費負担(1点につき40,000円)。特殊な図表は、実費を著者で負担する場合に限り掲載する。

学名および標本庫の表示

学名は、現行の国際植物命名規約(ICBN)に従い、属名および種と種以下の分類群の形容語のみをイタリックで表示する。本文中では学名以外はイタリックを使用しない。学名は初出時に命名者名を付ける。命名者名は、省略形を使用する場合、Brummit, R. K. and Powell, C. E. (eds). 1992. *Authors of Plant Names*. 732pp. Royal Botanic Gardens, Kew または The International Plant Names Index のホームページ (<http://www.ipni.org/>) に従う。栽培植物の学名は、最新版の国際栽培植物命名規約(ICNCP)に従う。標本庫の略語は Holmgren, P. K., Holmgren, N. H. and Barnett, C. B. (eds). 1990. *Index Herbariorum* 8 ed. 693 pp. New York Botanical Garden, New York または *Index Herbariorum* のホームページ (<http://sciweb.nybg.org/science2/IndexHerbariorum.asp>) に従う。

文献の引用

引用文献は、ウェブサイトを含め本文中に引用したすべてを記さなければならない。文献の配列順序はアルファベット順とし、一件ごとに改行する。すなわち、第1著者の異なるものはアルファベット順とし、姓が同じ場合は名のアルファベット順とする。第1著者が同一の場合には、単独のものを最初とし、そのあとは、第2著者の氏名のアルファベット順とする。第2著者も同一の場合には、第3著者以下について上記に準じる。著者が同一のものについては、発表の年代順とする。同一著者、同一年代のものは、年号のあとに小文字のアルファベットを付して、1999a, 1999bのように区別する。著者が3名以上で第1著者が同じである場合は、他の著者が異なっているときでも年号のあとにアルファベットを付して区別する。なお本文中での引用は、石川(1999)もしくは(Toyama 1999)のように著者名と発表年を用いる。なお著者が2名の場合、石川・富山(1999)、(Ishikawa and Toyama 1999)、3名以上の場合、石川他(1999)、(Toyama et al. 1999)の形式を用いること。

a 雑誌の場合:著者名(姓前名後とし、すべての著者名をあげる)、年号、論文表題、雑誌名、巻数(太字):頁とし、通し頁でない場合のみ巻数の次に丸括弧で号数をあげる。

石川太郎. 1989. 日本産イネ科の系統分類. *地理分類研究* **25**: 33-42.

Ishikawa, T. and Toyama, J. 1990. Two new species of *Poa* (Gramineae) from Japan. *J. Jpn. Bot.* **65**: 4-12.

富山次郎. 1991. 富山県産イネ科目録. *イネ科研究レター* (52): 8-9.

b 単行本の場合:著者名(aに同じ)、年号、表題、引用頁、発行所、発行地の順とする。なお発行地が複数の場合は一箇所のみとする。分担執筆や論文集、報告書等の場合、表題の後に編集者名、書籍表題を付け加えること。

福井三郎・新潟四郎. 1989. 日本海沿岸地域のエコログサ属の生態. 日本海学術出版会(編). *日本海学術報告書*, pp.24-31. 日本海大学, 新潟.

石川太郎. 1981. *イネ科の分類*. 富山書房, 東京.

石川太郎. 1984. *イネ科*. 富山次郎(編), *日本植物誌* III, pp.38-78. 石川出版, 金沢.

Ishikawa, T. 1985a. *Taxonomic study of Asiatic Gramineae*. Smith and Brown, New York.

Ishikawa, T. 1985b. *Morphology in Gramineae*. In: Willson H. B., Clemens, A. C. and Backer, I. P. (eds), *Gramineae in the world*, pp.23-45. Academia, London.

c ウェブサイトの場合:掲載者名、確認した年、表題、URLを表示する。

環境省自然環境局野生生物課. 2010. 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>

なお、引用文献を他言語表記した場合、(in Japanese), (in Japanese with English summary), (in Russian), (in Chinese)等を付記する。

その他、原稿の体裁については最近号をよく参照のこと。

最終原稿の送付

審査終了後の最終原稿は、2部を、電子媒体（フロッピーディスク、CD-R など）、表・図の原図とともに郵送する。本文は原則としてワードファイル（.doc）、表・図の電子ファイルがある場合は、それぞれエクセルファイル（.xls）、JPEG 画像ファイル（.jpg）として1点ずつ別ファイルで保存する。写真の解像度は300dpi以上であること。なお、電子媒体、表、原図は原則として返却しない。返却希望の場合には、予めその旨を申し出るとともに、宛先を記入した返送用封筒を、最終原稿の送付時に必ず同封すること。

校正

原則として、初校を著者が行い、第2校以降は編集委員会の責任において行うものとする。活字は編集委員会が指定するが、特に希望する箇所があれば、鉛筆で記入すること。

校閲

英文論文については、英語を母国語とする外国人の校閲を受けておくことが望ましい。編集委員会で外国人の校閲を受けることがあり、その場合の実費は著者負担とする。

別刷

投稿者は必要とする別刷部数を最終原稿に明記すること。総説、論文、短報、ノートは、50部は無料、それ以上については実費を徴収する。投稿者（共著の場合は責任著者）には論文のPDFファイルを配布する。

原稿送付先および編集に関する連絡先

送稿や編集に関係した通信は 〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学大学院自然科学研究科 植物地理・分類研究編集委員会 編集委員長 山田敏弘 TEL & FAX : 076-264-6207 / E-mail : nymphaea@staff.kanazawa-u.ac.jp。投稿の場合、紙原稿では封筒に「投稿原稿在中」と朱書き、電子投稿では電子メールの表題を「植物地理・分類研究投稿」とすること。

転載許可申請書について

本会誌に掲載された図や写真等の他の印刷物での引用（使用）を希望する場合は、以下のような様式で「引用許可申請書」を作成し、学会の庶務幹事宛（〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学学校教育学系 植物地理・分類学会 庶務幹事 五百川裕）に郵送して、許可を得てください。用紙はA4を使用し、使用先の出版物等の内容は以下の様式の括弧内の事項を参考に、できるだけ詳しく記載してください。

.....

転載許可申請書

植物地理・分類学会 会長殿

年 月 日

貴学会発行の「植物地理・分類研究」に掲載の図表等を転載したく、その許可をお願いいたします。

申請者の住所

氏名

印

- 1) 使用する「植物地理・分類研究」の巻、頁、著者名、題目、図表の番号
- 2) 著者の許可の有無
(著者の許可が必要です。許可を得ていない場合は、その理由を記してください。例：連絡がつかない、著者死亡等)
- 3) 使用先の出版物等の内容
(雑誌、本、パンフレット等を使用する場合は、発行元、発行予定数、有料・無料の別等を書いてください。)